

平成二十七年 入学試験問題 国語

五〇分間

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「いったい、ここってどこ？」

「M町だよ。まつりの生まれたところ。一歳半までしかいなかったから、覚えていないだろうけれど。」

わたしの目と口は開いたままになってしまった。えー、どーし

て、どーしてなの？ 車は坂道をのんびりと登っていた。両側の斜面には階段のように野菜畑がつけられている。道の脇では若緑色をした苗が、そよぎながら水田に影をa映していた。数軒の家にb力こまれるように、小さいがお寺らしい建物が見えた。父親はその門前に車を止めた。屋根瓦だけは新しいけれど、ほかの部分はどこも

A 古びて、苔でびっしりおおわれている。

「ここだよ、この離れに三人で間借りしてたんだよ。」

と父親はハンドルに両腕をかけてなつかしそうに言った。

「三人ってゆつと……お父さんとお母さんとそれに……わたしのこ
と？」

「ああ、そう。もう亡くなったけれど、とても親切な和尚さんだったよ。お母さんが授業しているときは、まつりのお守りまでしてくれたし……は、は、は。」

「授業って？」

「あれ、知らなかったのか。お母さんはここで塾を開いていたんだよ。いやけっこう生徒が集まってね。これがほんとの寺子屋だって笑っちゃったよ。」

「それで……お父さんは今の会社に通ってたの？ ここからじゃ大
変だったでしょう。」

「まあね。朝六時には家を出て、まだうす暗い道を電車の駅までテ

クテク歩いていくんだ。でも気分よかったなあ、空気はさすがしいし、美しい鳥の音が聞こえるし、冬は寒かったけれど、若かったからつらいなんて感じなかったよ。」

「ふーん。」

わたしは二の句が継げなかった。今の二人の生活からは想像も
できないような光景だった。まるで別の人間の物語のように。

「じゃあ、そろそろ海岸の方に行くか……。」

父親は特にc名残おしそもない様子で、車をターンさせた。でもさつきよりもっとdキゲンがよくなって、昔のポップスらしい曲を小声で口ずさみ始めた。

ふいにフロントガラスの正面に、目を一瞬閉じたほどぎらめく海がせりあがってきた。運転席の父親は歌をやめると、少し首をか
しげた。

「この近くに砂浜があるはずなんだが。」

海岸線と平行につけられた道をしばらく走ったが、堤防とわず高
く積まれたテトラポットが海とわたしたちのあいだをふさいでいる
ばかりだった。

「だめだね。」

父親はとうとう言った。

「すっかり変っちゃった。十五年以上も前の話だものね。」
彼は疲れて悲しそうに見えた。

「いいじゃない。堤防に腰かけて食べようよ、まつりもうお腹す
いて死にそう。」

とわたしは言った。

(加藤幸子「茉莉花の日々」による)

1 〓 傍線部 a d について、漢字の読み方はひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

2 傍線部 「わたしの目と口は開いたままになってしまった。」のはなぜか。その理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A M町の風景があまりにも美しいことに感動したから。

I 自分の生まれたところへ連れてこられて驚いたから。

U いつのまにか遠い町に来てしまい不安だったから。

E M町のことを全く覚えていないことが悲しかったから。

3 空欄 A に入る言葉として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

A どこも

I どちらも

U かしこも

E かなたも

4 傍線部 「これがほんとの寺子屋だ」とはどういう意味か。説明した次の分の空欄に入る言葉を、文章中から抜き出して答えなさい。

江戸時代に、庶民の子供に初等教育を行ったところの名称と、実際に妻が寺で行っていた□□とをかけて、しゃれたもの。

5 傍線部 「わたしは二の句がつけなかった。」とあるが、その理由として最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア 父母の若いころの話には関心がなかったから。

イ 父の話が、あまりにも意外だったから。

ウ 無理に明るく話す父の姿がきっかけだから。

エ 何も覚えていないので言うべきことがなかったから。

6 傍線部 「ふいに」に係る言葉を二文節で抜き出して答えなさい。

7 傍線部 「いいじゃない。」を朗読するとき、どのように読めばよいか。最も適切なものを次の中から選び、記号で答えなさい。

ア そつと遠慮がちに読む。

イ 冷たく突き放すように読む。

ウ 少しいらだっているように読む。

エ 明るく慰めるように読む。

□□ 次の文章を読んで、後の問に答えなさい。

明治以来の仮名文字論、ローマ字論、そして特に戦後の漢字廃止論者たちに共通してみられた誤りは、文字が読めさえすれば、ことばの理解は自動的に生まれると安易に考えたことであろう。従って a シュウトク に時間のかかる漢字を多用するよりは、アルファベットや仮名のような、全数の非常に少ない表音文字が望ましい、と主張したのである。

しかし現にアルファベット26文字だけを使用している、従って一般の人が読めない語などあるはずもない英語において、語の綴りが一文字ずつ読めることと、その語が理解できることとの間には大きな隔たりのあることなど、誰も取り上げなかったのである。そしてこのことは、そっくり今の日本語を埋め尽くしているカナ書き外来語にも当てはまる。

このように単純に考えた人の多かった初期の国語審議会が、漢字の制限のための当用漢字表や音訓表などを制定して b 施行した際に、同時にやたらと外国語をカタカナに直して使うことを c イマシめ、その防止の手立てを d コウずることを全くしなかったのは、理解できる。とにかく 漢字を減らしさえすれば、一切の問題がなくなるはずだったからである。 この考えが実は後になってカタカナ語の洪水を生む素地となり、遠因となったのである。

英語教育が普及した今日では、簡単な概念や事物の名称なら、英語でどう言うかを知らない人の方が珍しくなった。こうなると、英語の concept をまず概念と訳し、次にはその意味を確かめ、その上の難しい漢字を覚えて使うよりも、いっそコンセプトとして仮名書きにしまえば、このほうがはるかに手取り早い。しかも、この方式だと果たして本当に言語を正しく理解しているのかどうかを、他人に知られずに済むという利点がある。

現在、日本人がよく使うカタカナ英語の大部分が、元の英語の意味通りではなく、日本的に「歪め」られて用いられているということがよく問題になるが、これは見当違いの批判である。なぜかというところ、例えば日本人が使う「ニーズ」は英語の needs の訳としてではなく、むしろ需要、要求、希望といった漢字語の総括的代用品として使われていると考えるべきなのである。だからこそ、本当の英語には有り得ない意味や使い方が、カナ書き英語には見られるのである。

私はよく漢字（語）は口に苦い□□だが、カタカナ外来語は甘い口当たりの良い糖衣に包まれた毒薬だと言うが、それは仮名書き語は誰にでも読めるためやさしいと思われるが、その実、意味を（正確に）理解する者がほとんどなく、国民相互の伝達に大きな障害となっていることをたとえたものである。

振り返ってみると、戦後の大幅な国語国字改革の掲げた最終の目標は、日本語を誰にでも理解できる民主的な言語にすることにあった。漢字の制限はその目的に沿って、重要な柱と考えられたのである。いまや漢字を部分的に追放し、その地位、その日本語における価値をおとしめることに成功したという意味では、戦後の文字改革はひとまず目的を達したかに見える。しかし日本語を誰にでも使いやすく、開かれたものにするという究極の目的は、今多くの人が理解できないカタカナ外国語の e ランヨウ という、思いもよらなかった事態を引き起こしたという意味で、達成されたとは言いがたい。平易なたとえで言うと、日本語の難解さの張本人は漢字なりと頭から思い込み、表音文字である 仮名（アルファベット） のもつ日本語に比べての恐ろしさを知らなかったのだ。泥棒は表玄関からだけ入るものと勝手に考えて、その戸締りのみ嚴重にして、裏口を締め忘れ たようなものである。（鈴木孝夫「日本語と外国語」による）

1 〓 傍線部 a e について、漢字の読み方はひらがなで書き、カタカナは漢字に直して書きなさい。

2 この文章には、次の一文が抜けている。文章中に入れるとすればどこが最も適切か。直前の文の終わりの二文節を抜き出して答えなさい。
(句読点は記さなくてよい)

このしくみが理解できれば、カタカナ外国語の意味の日本化はむしろ当然なのだ。

3 傍線部 「漢字を減らしさえすれば、一切の問題がなくなる」というのは、どのような考えに基づいているのか。その考えの内容を表している部分の初めと終わりの一文節を抜き出して答えなさい。

4 空欄部 に入る最も適切な漢字二文字を答えなさい。

5 傍線部 「仮名(アルファベット)のもつ日本語にとっての恐ろしさ」を具体的に書いている部分はどこか。初めと終わりのそれぞれ一文節を抜き出して答えなさい。

〓 次の文章の空欄に入る言葉を、あとのア オから選び記号で答えなさい。

時間の所有に関しては、先ほどの小学生のように、不公平さを嘆かずにすませられそうである。これはなかなかおもしろいことである。幼稚園にあるブランコにしろ、誰かが占領すれば、ほかの子供はそれがあくまで待っていないなければならない。おもちゃにしても、誰かが使つと他の者は使えない。、時間だけは、だれもが「自分のもの」であると主張しても、他人と取り合いをしなくてもよいものなのである。

(河合隼雄「新しい教育と文化の探求」による)

ア だから イ つまり ウ しかし エ たしかに オ ところで

〓 次の文章中の傍線部「それ」は何を指すか。最も適切なものを十字で抜き出しなさい。

石とは、子供にとっては硬いものの象徴である。不滅なもの代表でもある。その硬い、不滅なものが、私の手で見事に二つに割れたのだ。私は石を割ることに成功すると、子供ごころに、何か人間の誇りのようなものを感じた。それは人間のうちに潜む破壊欲なのだろうか。いや、破壊欲というよりも、征服欲のような気がする。石は手に持つことができるくらい大きさであっても、自然のサンプルである。もっとも手ごわい自然を、その硬さ、不滅さによって具現しているのだ。私はそれを真二つに割ることができたのである。それが幼い私の、というより、人間の力の証明であり、自覚にほかならない。

(森本哲郎「信仰のかたち」による)

受験番号
氏名

※受験者はこの欄には記入しない
↓

7	6	5	4	3	2	1
エ	セリあかてまいた	イ	熟	ウ	イ	a うつ b 井 c なごり d 機嫌
(4) x 2	(4) x 2	(4) x 2	(4) x 2	(4) x 2	(4) x 2	(3) x 4
						12 16 12

20
12
12
44

51
62
106

5	4	3	2	1
初め 役を書き語は	良書	初め 文字が	見られるのである	a 習得 b し c 戒 d 講 e 濫用
(3) x 5	(3) x 5	(3) x 5	(3) x 5	(3) x 5

(3) x 6

36
27
9

ウ (4) x 4

も
と
も
手
ご
わ
い
自
然
(5)